種名	キ　ア　ゲ　ハ Papilio machaon hippocrates
分類	アゲハチョウ科
形態	前翅長 36～70mm。前種によく似ており、本種は、地色が黄色、前翅表基部が黒色、初型は小型で黄色が淡い。夏型の♀はずっと大きく、前翅表の基部にある黒色部が広がる。
分布	北海道、本州、四国、九州（種子島・屋久島を含む）分布は北に偏り、北半球の寒冷地に棲む。平地から見られ前種と異なり山地でも多く、高山帯でよく姿が見られる。そして一部では高山帯で発生を繰り返す。
出現期	3～4 月から 11 月ごろまで、年 3～4 回の発生。寒冷地、とくに高標高地では 7～8 月に春型が見られ、年 1 回の発生に終わることがある。蛹で越冬する。
生態	明るい開けた畑や草原に棲む。山の上にたくさんの♂が集まり、そこで占有行動をとる。♀が飛んでくると、すぐに交尾する。飛ぶ力が強く、食草がまったくない場所にも姿を現す。♂は地上で吸水することが多い。ときに群れをつくる。アザミ類、ヒャウニチソウ、ツツジ類などで吸蜜する。
食樹	セリ科のニンジン、ミツバ、パセリなどの栽培植物、同科のシシウド、シラネニンジンなど多くの野生種を食べる。ごくまれに、ミカン科やキク科を食草としていることがある。
幼虫 （幼生期）	若齢は黒褐色の地色に白色帯があり、4 齢になると橙色斑が目立つようになる。終齢（5 齢）では地色が黄緑、黒色の横帯に赤い斑点がある。黒色部が広い個体も見られる。体長は 50mm。
出現時期	（月）　－　－　3　4　5　6　7　8　9　10　11　－
その他	
参考文献：検索入門　渡辺康之著　チョウ	